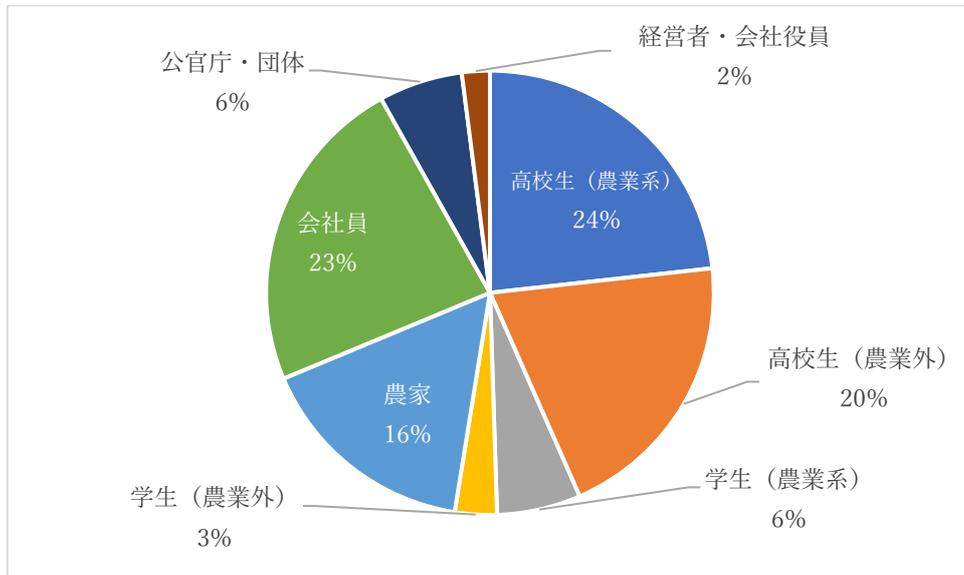


令和2年度未来の畜産女子育成プロジェクト

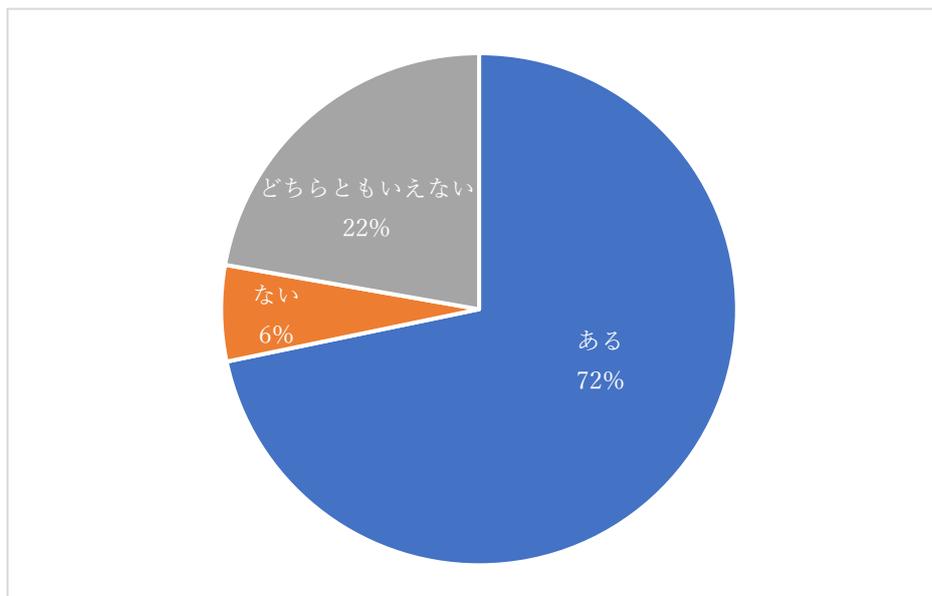
2020年の春先に世界的に広がった新型コロナウイルス感染症。当時、流行の先行きが不透明であり、社会的な影響が大きいことを踏まえて、令和2年度の本プロジェクトは中止としていました。しかし、事業のPRと畜産の魅力を伝えることを目的に、就農を目指す方が利用しているマイナビ農業（[日本の畜産・酪農を明るくする20代女子たちの取り組みに迫る](#)）と、高校生たちが愛読しているフリーマガジンのch FILES（[高校生参加型フリーマガジン \(ch-files.net\)](#)）にこれまで本プロジェクトに参加した方の今を伝える記事を掲載し、多数の方に読んでいただきました。

記事を読んでいただいた上でアンケートにお答えいただいたところ以下のような結果が得られました。

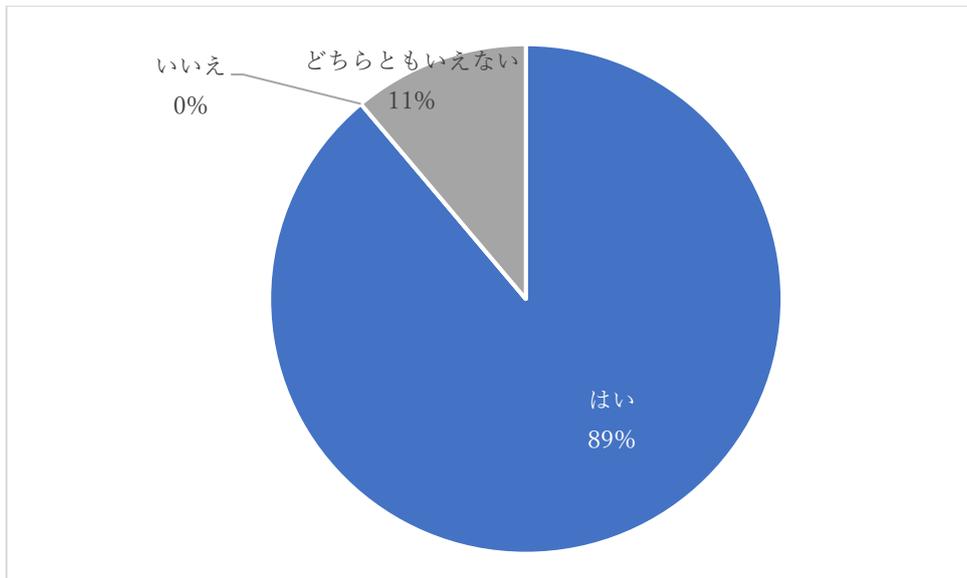
アンケート回答者の職業



畜産業に対する興味

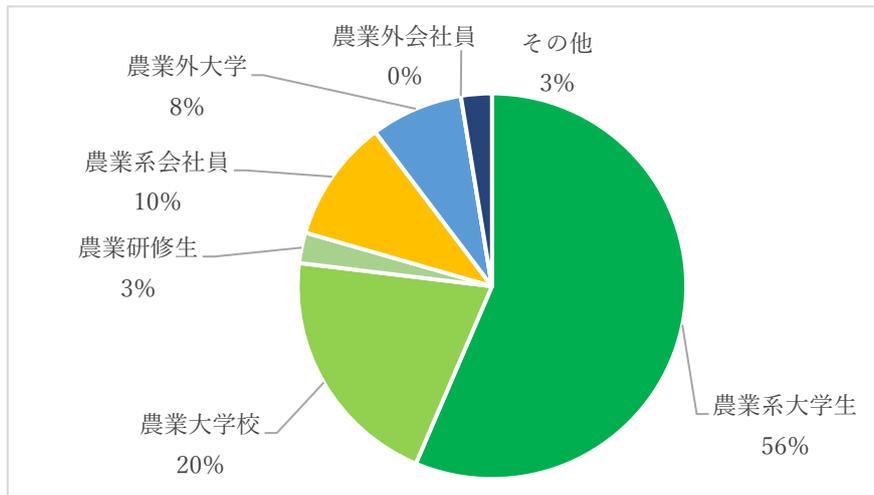


記事を読んで畜産に対する印象は良くなったか？



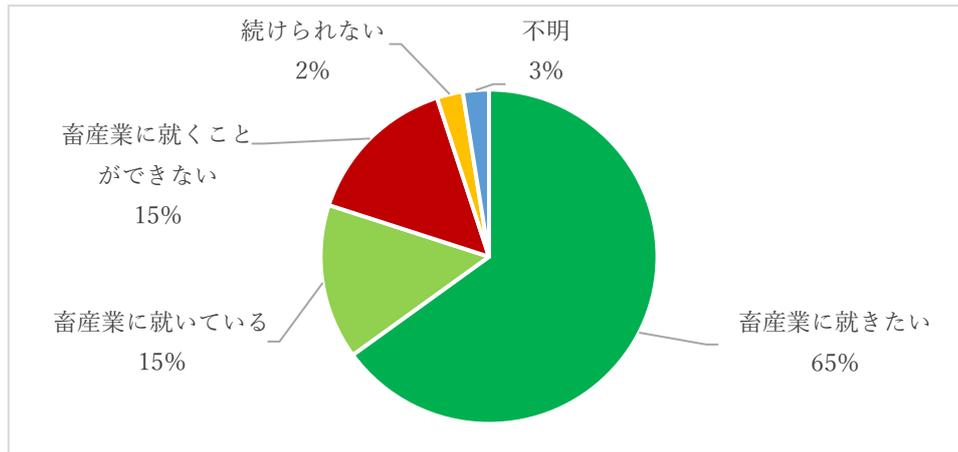
若い世代の頑張りに対する励ましや、同年代（高校の先輩・同級生）の活躍が刺激になっていることが分かりました。

また、これまでプロジェクトに参加した方（平成 30 年、平成 31 年）40 名に、進路調査をしました。2021 年 3 月の段階で尋ねたところ、進路については、以下のグラフのようになりました。



高校卒業後に進学し、畜産を大学や農業大学校で学んでいる方が全体の 8 割弱を占めています。また、農業大学校を卒業し、社会人になる方もいますが、畜産業を中心とした農業分野への就農を目指す方が多いです。一方で、農業外の大学へ進学している方もいます。畜産業を選びたくないということではなく、自分の目指すところが少しずつ変化していったりより将来の目的に沿った進路を選んだ結果ということでした。

将来畜産業に就くことについてどう考えているか？



将来畜産業に就きたいと思っているかどうかを尋ねたところ、畜産業に就きたい、または、すでに畜産業に就いているという方が8割という結果になりました。畜産業に就くことができない、続けられないという回答も2割弱あり、その理由としては、生産現場より教育やその他の農業を目指したいということがあげられました。パートナーが畜産業とは関係ない業種の人であり職業として継続することが難しい、将来を考えた際、体力面・精神面で持続するのが難しいということもあげられる方もいました。

畜産業が”嫌い”ということではなく、取り巻く環境により様々な選択を迫られていることがうかがえます。

令和3年度の未来の畜産女子育成プロジェクトは準備を進めています。

コロナ禍に対応した内容を考案し、参加者が安心して取り組めるようにしております。

これからも本事業をどうぞよろしくお願いいたします。

令和3年3月
未来の畜産女子育成プロジェクト事務局